

令和5年度 特例の教育課程の実施状況報告

1. 学校・市町村概要

名護市立 名護小学校

・教育目標: 考えをつくりだす子 心をみがく子 体をきたえる子

・所在地 ●沖縄県名護市大西2-2-22

・児童数

学年	小学校								中学校					小中計
	1	2	3	4	5	6	特別支援学級	計	7	8	9	特別支援学級	計	
児童生徒	111	115	125	148	116	137	64	816						
学級数	4	4	4	5	4	4	10	35						

○名護市概要【人口】63,309人【学校数】小学校11校、中学校6校、小中一貫校2校

2. 教育課程特例の取り組み・概要

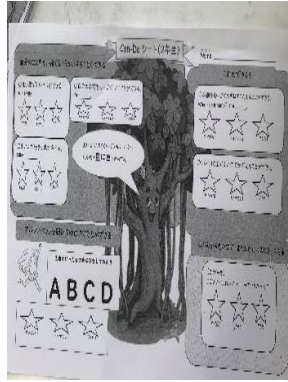
ねらい

- 歌や遊びなどの活動を通して、英語特有の発音やリズムに慣れる。
- 間違いをおそれず、英語発音をまねし、進んで発話する。
- 帯活動に始まって、本時のめあて、振り返りまでの流れを毎回繰り返し、目的と見通しを持たせて進めた。
- ゲームを取り入れた活動を通して「めあて」を達成できるようにした。
- JTEと担任のチームティーチングで、児童に安心感を与えられるようにした。
- 1、2年生の帯活動に、新しくアルファベットに親しむ活動を取り入れた。
- 児童数の多さを活かし、英語でのあいさつなどの活動で、コミュニケーションの素地を養った。
- クラス全体→ペア→個人の流れで会話の活動をするを引き続き意識した。
- 自分の名前や好きなものなど、自分について英語を使って会話することを意識して帯活動に取り入れた。
- 2年生から3年生への接続を円滑に行うため、JTEを1、2、3学年に配置した。

3. 取組の工夫:教科等の系統性・連続性を踏まえた学習指導【系統図や指導計画の作成

- 生徒数の多さを活かしたクラス間の交流
- 体をつかった、歌や表現、ジェスチャーゲーム
- クラス全体→ペア→個人の流れで会話
- ゲーム 身近なものを題材にしたクイズ
- どの活動も最初に教員同士が会話のモデルを見せること
- 帯活動に自己紹介の基礎を入れて、繰り返し練習し、自然に発話できる姿を目指したこと

●1年生から中学3年生まで継続して使用するcan-do-listの活用



4. これまでの成果と課題、今後の取り組み

- 昨年度に引き続き、英語が好きで、“できる”という気持ちの児童が増えた。
- 英語が苦手という先入観が芽生える前に、楽しい、好きという気持ちを育てることができた。
- いつもは発言に躊躇する児童も、たくさんの友達の前で発表することに積極的であった。
- 幼少連携 3年生へのスムーズな接続を意識した授業づくりや実践を引き続き行っていく。
- いろいろな児童の良いところ、苦手なところに寄り添っていくことで、一人ひとりが輝ける場面を作ってい